件 名	令和５年度　第１回小千谷市地域公共交通協議会	第　　回 前回令和　年　月　日
日 時	令和５年６月 29 日（木）　13：30～14：30	
場 所	小千谷市役所　403 会議室	
出席者	委員 17 名中 12 名　別紙委員名簿のとおり 代理出席：吉田委員（代理：皆川真人氏）、髙橋委員（代理：佐藤公一氏） 欠　　席：水口委員、神田委員、杵淵委員、玉巻委員、髙木委員 事務局（にぎわい交流課）佐藤課長、大平課長補佐、安達係長、髙橋	
配布資料	別紙のとおり	

会議等の結果等

会長進行

会　　長：会議成立確認を報告願う。
事 務 局：本日の会議出席者数は全委員 17 名中 12 名。
規約第 10 条第 2 項の規定により、議員の過半数の出席により会議が成立していることを報告する。

（１）協議事項

・令和４年度事業報告・決算、令和５年度事業・予算について

事 務 局：【資料 1-1】説明
【資料 1-2】説明
監査員報告をお願いする。
委　　員：令和５年５月 19 日に監査委員２名で監査を行った。歳入歳出とも帳簿類証拠書類等管理しており、記載に間違いのないことを報告する。
事 務 局：【資料 1-3】説明
令和５年度は計画策定を行う。
今年度の会は、対面での開催を予定している。
第４回については書面開催も検討している。
【資料 1-4】説明
令和５年度は、計画策定等がないため、小千谷市からの負担金が 612,000 円。
歳出は、策定については自前で行うため、議員報酬および印刷に係る経費のみ。

異議なし：承認

・令和６年度地域内フィーダー系統確保維持計画（循環バス）について

事 務 局：【資料 2】説明
小千谷市内を走る循環バスの運行に係る国庫補助金を申請するもの。
循環バスは、路線バス十日町小千谷長岡駅前線などのように小千谷市と周辺市町村を結んでいる地域間幹線系統を有効に繋ぐ役割を持って運行している。
小千谷総合病院が平成 29 年４月に開院し、それを基に循環バスを運行している。
この循環バスのように、本線である幹線系統と接続した支線としての役割を果たしている路線についてフィーダー系統という。このフィーダーというのは、支線という意味である。

（裏面につづく）

バス事業は、令和5年10月から来年の9月までの1年間が令和6年度となるため、令和6年度小千谷市地域内フィーダー系統確保計画について、今年の10月以降の1年間の計画を、本日の協議会で審議した結果に基づき国に提出する。
全国的な課題ではあるが、当市においても人口減少やマイカー普及による公共交通の利用者減少が、路線バス事業において収支の悪化を招き、減便または路線の廃止を招いている。
その一方で、通院通勤通学など日常生活に公共交通を利用している方も多く、必要不可欠な交通手段を引き続き確保していくという役割は行政が果たしていく必要があると考える。
そのような状況下で、循環バスが果たす役割が３点ある。
1点目は、地域間幹線系統からの乗り継ぎや通院通勤通学など日常生活に必要不可欠な交通手段の確保。
2点目は、市内における公共交通空白域の解消。これまで路線バスが走っていなかった地域に循環バスを走らせることで、公共交通空白域が若干減少している。
3点目は、中心市街地の本町、郊外にある大型店、または公共施設などを結ぶことによる地域活性化である。
これらの効果が期待できる公共交通ネットワークを循環バスにより構築し、将来にわたって安定した公共交通を確保維持することが事業の目的であり、当市の公共交通の目指す姿である。
現状循環バスの利用者数については、令和2年度から3年度にかけ、利用者数・1便平均利用者数は減少を続けている現状。PRを続けていくことで、安定的にバスを運行できるように考えていく。

異議なし：承認

・地域公共交通計画（案）について

事 務 局：【資料3】説明
昨年度はアンケート調査を実施した。
アンケートと第4次小千谷市生活交通確保計画との整合をとりながら、小千谷市の地域公共交通に関する計画を今年度策定する。
小千谷市地域公共交通計画の構成案の第5章、第6章については、第2回公共交通協議会で審議する。

会　　長：第4章の課題目標があり、第5章第6章目的達成に向けて行う事業となるため、再度皆さんの意見を聞きながら行う。

委　　員：小千谷駅は、乗降2,000人以上に当てはまり、バリアフリーの対象駅に指定されているが、階段等がありバリアフリーを整備するのが難しい駅。国と小千谷市と連携しながら、どういう手があるか考えていく必要がある。
利用者数については、人口減少に引っ張られる傾向がある。鉄道を利用して通学する高校生は年々減ってきていると感じている。どう対応していくのか、小千谷市と連携しながら考えていく。

委　　員：バスの利用実態を確認しておく。待合環境の整備は課題。

委　　員：乗り合いタクシーは、今年から越後交通の路線を引き継いで塩谷線運行を開始した。枝線にデマンドで出向くこともでき、小回りが利くため、地域から非常に喜ばれている。従来の池の平線・北山線は、人口が減っているため利用者数も減っている。

委　　員：人口減少、少子高齢化で、いかんともしがたい。
朝の通勤通学時間帯以外ほぼ乗客がいない。バス会社は大変だろう。
電車は、昔は小千谷から出ていく人が多かったが、現状どうか。

会　　長：市内の高校は、谷高と西高。
西高は小千谷市から5割、長岡市から3割、魚沼市から1割。
谷高は長岡市からの通学者が多く、長岡の受け皿になっている。
具体的な数字は、必要があれば事務局を通じて公表可能。

（次ページへつづく）

委　　員：利用者の減少は、通勤通学で影響を受けているのではなく、コロナの影響で一般利用者が減ってきているのでは。コロナの影響であれば、今年あたりから若干上向いてくるのではないか。路線バスについては地域住民に利用してもらえるように地域に働きかける必要がある。

委　　員：このアンケートから抽出した課題の中で、今高齢化が進んでいる。
片貝でも約 4 割が高齢者。買い物が非常に大変になり、バスを利用する人が増えていく。停車する場所を考慮する必要があると感じる。
片貝には小さな店が 1 つだけある。乗り合いで買い物に出かけるなど助け合うこともあるが、公共交通を使いたい人もいる。買い出しのためのバス停など考慮していくべき。

委　　員：新潟交通と同様に、運転手の数は不足している。運転手が高齢となっている。
小千谷営業所だと50代60代の運転手がほとんど。数年前から傾向はあったが、高齢と退職で数の確保が難しい。業界全体の課題。

委　　員：地域公共交通の根幹になるため、運転手の確保も課題。

副 会 長：スクールバスのみならず、病院関係の自前のバスや企業のバスも走っている。
活用して、お互いに協力する方が選択肢は広がる。IT 化や MaaS 導入も視野に入れておいてもいい。
バスやタクシーの地方の営業所がなくなっていっている。タクシーが動いていない時間帯など、車なし代行というものがある。飲み会や夜間に帰宅する際車なしで利用できる。タクシー会社が動いていない競合しない時間帯に導入する検討の余地はある。
買い物に関しては、効率を考えるとバスで連れて行くより物販で売りに行くほうがいい。

会　　長：今の意見を参考にまた次回に繋げていければ。

（２）報告事項

・令和４年度公共交通実績報告について

事 務 局：【資料 4】説明
池の平線と北山線の乗合タクシーの運行については、運行開始から十数年経ち、年々利用者が減少している。
4 月から越後交通の路線バスが廃止になった路線を引き継ぎ、塩谷線を運行。開始。東山地区の住民、通勤通学に毎日利用いただいている。初年度の滑り出しとしては非常に順調である。また公共交通協議会の中でも報告する。

異議なし

事 務 局：次回協議会は 9 月に開催を予定。
本日協議した小千谷市公共交通計画について、提示した課題に対する取り組み内容を記載し、完成を目指す。

（　閉　会　）

以上